

火曜会通信

発行日：平成14年1月1日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧1丁目1番地

伊丹市教育委員会事務局内

<巻頭言>

『正倉院展』に想う

柳沢 森夫

古都・奈良の秋を飾る「正倉院展」を鑑賞する機会を得た事ができた。「天平文化の粋」と呼ばれる第53回を迎えた奈良国立博物館での出陳は75件を数え、初公開は22件であった。

これを機に、正倉院について学んだ一端を記すことにする。「正倉」とは、田租として国家に納めた正税（正稲）と宝物などを収納した主要（正）な倉庫（倉）のこと、これが棟を並べる区画を「正倉院」と称したとされる。

北倉は聖武天皇（701～756）崩御後、その冥福を祈る光明皇后により東大寺の大仏に献納された天皇の遺愛品が中核になっている。南倉・中倉は、造東大寺司や東大寺の諸行事に関連した品々を保管したとされる。

宝物の種類は、書跡・文房具・調度・飲食器・服飾・仏具・武具・楽器・遊戯具・年中行事具・香薬類などきわめて多岐にわたり、それらの殆どが7～8世紀頃の遺品であるばかりか由緒が正しく、出土品ではなく伝世品であることで、世界的にも例のない至宝であるという。

出陳宝物の中で、特に私の目を惹いたのが「紫檀小架 シタンノショウカ」であった。高さ60cmほどの愛らしい宝物で、上面に薄いタイマイ（アオウミガメの甲）を貼り、ほのかな金色をたたえている。基壇の上に紫檀で鳥居形を作っている。注目されるのは鳥居形の前後に、象牙製のコートをかけるようなかけ具が見えること、この用途については未だわかつていない。恐らく高貴な人物の調度品であり、何に使われたのか想像をかきたてられる。次は、唐の經典「成唯識ジョウユイシキ論卷第四」であった。これは法相宗を開いた中国・唐時代の高僧、慈恩大師の直筆の可能性が極めて高いといわれ、中国にも残っていない資料で力強い筆致を感じた。

続いて「乞巧糞キッコウデン」（七夕祭）で用いた儀式用具で、女性達が針仕事の上達を祈るために用いた針や糸などである。今から1200年前の人達が現在も使用している裁縫用具を手にしていたという事実に伝承の重さを感じた。わずか2時間ほどで「天平のカプセル」優れた美術工芸品などを目の辺りにして、当時の人々の暮らしぶりに思いを馳せる事ができた幸せを深くした。

参考資料・国立博物館図録および朝日新聞

主な行事予定（2月から4月）

◇ 定例会

2月12日(火)	特別講座「発掘あれこれ」	市教委	中央公民館
3月12日(火)	年度総括		中央公民館
4月 9日(火)	年次総会		中央公民館

☆ 分科会日程は4ページです

昨年は、柿のなり年。枝もたわわに色づいた柿を見ると、不思議なくらい心が騒ぐ。街中で鈴なりの柿の木が夕日を浴びひときわ鮮やかに輝いているのは、罪にさえ思えてくる。「食べきれるのかなあ。」注目しているが一向に取られた形跡がない。観賞には多すぎる。期間も長い、食べ頃もある。吝嗇リンショクなのか、孤立しているのか。親しい人、欲しい人に上げればとか詮索している自分に気づき苦笑する。こんな時決まって昔のことがよみがえる。

腕白盛りの小学5年生。餓鬼大将に連れられ柿狩りと称し里山に行く。西空が茜色に染まる頃、獲物を手に帰路を急ぐ。人家近くを気にもせず、声高に自慢しているのを、縁先の老人に呼止められる。

柿の木が、自然のものでなく人の手で育てられたものと知られ、事の重大さに涙ぐむ。二度としないことを誓い柿を差し出すが、老人はかすかに笑い「それは持つて帰りなさい。家の人に貰ったと言いなさい」とさとされ、ホッと胸をなぜおろす。柿に対する特別な思いは、このことに起因しているのである。

過日、松源寺境内の安部備中守正次（大坂城城代職）の墓を訪れた時、かたわらに見事な柿の木、鈴なりだ。眺めていると「よかつたら、どうぞ」居合わせたご婦人の声に誘われさっそく頂く。小ぶりで、少し固めだが、好意に感謝。

紅葉の深まりと共に、郷町を訪れる人があとをたたない。旧岡田家・旧石橋家住宅のガイドのたび、「柿衛文庫」裏庭の柿の木が、妙に気にかかる。樹齢何百年の老木はすでに枯死し今は二代目ときく。その昔、漢詩人「賴 山陽」がことのほか愛したそうだ。

幕末期に活躍した岡田家19代・岡田糠人は、梶 曲阜らと尊敬する先輩「鬼貫」の句碑建立に携わった俳人でもある。号を「柿園かきぞの」と称したのは、この柿の木にちなんだと言われている。記録によると中国産の柿ターモンパンという種類で、富有柿のような大振りの渋柿である。これが熟し柿になると渋が抜けとろけるような甘さを醸し、酒宴のあとデザートには最高と山陽は絶賛。母と箕面の紅葉狩りの帰りに立寄った際、漢詩を作り、同行の画家「田能村竹田」が絵を添えたのが有名な「柿記」で文庫に収蔵されている。

岡田家最後の酒造業は、俳文学者で鬼貫、芭蕉研究の第一人者でもある22代岡田利兵衛氏が継ぐ。彼の号は「柿衛かきもり」である。文人、墨客の愛した柿を衛るに由来しているのは勿論だが、伊丹の文化を衛るに通じるもので、残されたのが「柿衛文庫」である。

なにはともあれ、柿に格別の郷愁を感じる私にとって一度は賞味したい品種である。

<神津・中央公民館フェスティバル参加>

11月10～11日 神津ふれあい祭り

内容 火曜会活動紹介パネル展示

柴田博・坂根

11月16～18日 中央公民館活動フェスティバル

内容 火曜会活動紹介パネル展示/ビデオ/会報配付 柴田博・坂根・稻実・柳沢・黒田
齋藤・山中・杉本・塩井・渡邊・西口・辰野・山内・寺谷

<三田市文化財ボランティア会との交流>

11月14日 郷町館/有岡城趾/御願塚古墳/昆陽寺ガイド 山本喜・柴田博・坂根・藤本・他

<市内史跡清掃参加>

11月18日 有岡城趾公園/伊丹廃寺跡公園 藤本・渡邊・平松・服部・稻実・森田・坂根

□ 主な活動の記録 □

<伊丹郷町館ガイド>

来場者

10月13日	日本エスペラント語大会参加者	50人
10月14日	龍野市 街を良くする会	35人
10月16日	伊丹小学校	8人
10月17日	安堂寺町自治会	21人
11月 4日	フィットネスラスター会員	38人
11月10日	伊丹市自由研究推進委員会	50人
11月16日	阪神・淡路をめぐるモニターツアー	30人
11月17日	大村ライオンズクラブ	24人
11月17日	伊丹小学校親子見学会	200人
11月21日	防災推進室豊能地区消防協力会	7人
11月28日	伊丹女性衆講座受講生	9人
11月30日	阪神広域行政文化・歴史バスツアー	80人
12月 6日	吹田市津雲台明朗会	73人
12月 7日	小西酒造(株)	7人

<伊丹市域のガイド活動>

10月 6日	池尻小地区社教	20人
内容	昆陽村の史跡探訪	
10月10日	三重県東員町文化財調査委員	7人
内容	猪名野神社・有岡城跡	
10月19日	伊丹市老人連合会	250人
内容	神津地区史跡探訪	
10月18日	伊丹市老人連合会(雨天中止日に参加された方)	8人
内容	神津地区史跡探訪	

<リレー隨想>

『ボランティア活動』

池田 利男

8月の暑い最中、池尻小学校の子供達30数名と我々山内さん、治井さん、私と3名にて、ボランティア活動をさせてもらいました。

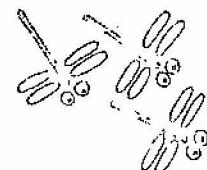
世界の人形、動物なぜなぜ問答等子供達の素直な気持ちと行儀の良さに、先生共々楽しい時間を過ごさせてもらい、大いに勉強になり、また、色々反省の材料も出て、次回の資料とさせてもらいました。

ハーモニカ ミニコンサートの曲目は「みんなで昔の唱歌を唄おう」で

- 1 みかんの花咲く丘
- 2 椰子の実
- 3 浜辺の唄
- 4 海

火曜会参加者

山内・山本喜・池田利・山中・豊田
山中・鍛治・柴田博・豊田
山本喜
池田利・柴田博・片山・豊田
山中・西口・豊田
池田利・鍛治・日野・山本紀
池田利・豊田
鍛治・豊田
治井・日野・西口・難波・豊田
片山・池田利・福岡・鍛治
山本喜・山本紀・片山
日野・豊田
池田利・豊田
山本喜・山本紀・治井・難波・藤本
豊田
・豊田



5 夏は来ぬ

6 牧場の朝

7 我は海の子

8 この道

9 山の人気者

10 明日があるさ

10曲の唄を用意しましたが「みかんの花咲く丘」がいい唄だと子供達が感想を述べてくれ、また、ハーモニカの良さもよくわかつてもらえたものと安心しました。

特に子供達の一番知っている曲としてテレビの影響か「明日があるさ」の大合唱で最後は盛上がりりました。

ハーモニカ そっと吹けたか 幼子よ
笑うとも 泣くとも見える ピエロかな

次回は齋藤 篤義さんにお願いします。

◇分科会開催日程>

◇ 第2部会（街道を歩く）

1月29日(火) 集合時間 市バス「総監部前」停留所 9.40

伊丹廃寺跡→臂岡天満宮→緑ヶ丘→西皇天神社→妙宣寺→竹塚

2月26日(火) 集合時間 市バス「御願塚」停留所 9.40

御願塚古墳→谷垣・田中邸→須佐男神社→了福寺→南野神社→大空寺

◇ 第3部会

いずれの日も集合時間は13.30です。 古文書解説の手ほどきから学びます。

2月19日(火) 3月12日(火) 4月2日(火)

スワンホール スwanホール スwanホール

◇ 第1部会（村の歴史）

いずれの日も集合時間は9.30です。 当面研究テーマに対するグループ内情報交換をします。

2月19日(火) 3月19日(火) 4月23日(火)

中央公民館 中央公民館 中央公民館

<リレー随想>

『五台山竹林寺』を訪ねて

山本 紀子

2001年の中国の旅は、陝西省の西安から山西省の大同へ列車で19時間(1000km余り)、大同より五台山、五台山から太原へとバスの旅600km余り、太原から西安まで列車で650kmと約2300kmに及んだ。

山西省は山岳地帯が多く、五台山は海拔2000~3000mの五峰からなる。東台、西台、南台、北台、中台があり、最も高い山は北台で3058m。古くから仏の智慧を象徴する文殊菩薩の聖土として信仰の対象となり、峨眉山(四川省)、天台山(浙江省)とともに中國三大靈場の一つとして知られている。

五台山の中心地には、佛教施設が集中し最も盛んな唐代には約400ヶ寺。現在では女子仏教学院や39の寺院があり、多くの寺院が文殊菩薩を祀っている。また、長い石段のある寺院も数ヶ寺あり、石段の数は108段、日本の除夜の鐘と同じ意味を持っている。これは、我々日本人にとってはとても興味深いことであった。

五台山の中心地から少し離れた山岳地に、平安初期(838年)遣唐使として赴き、帰国の途につけず、五台山で天台教学や念佛行法を学んだ慈覚大師・円仁和尚(794~864年)が逗留した竹林寺があると聞き訪ねてみた。寺院は無く仮設の建物で白い塔のみ昔の姿を残しており、仮設の棟には慈覚大師円仁和尚の位牌と像が祀られていた。

我々8人のおばさんは、異国の秘境の地で苦労されたであろう円仁さんに思いを馳せ、お布施をさせていただいた。竹林寺のお坊さんには、寺院再建の模型(日本の東大寺と同型)を見せてもらい、記念にと「大聖竹林寺之三寶印」と印された真新しい実寸8cm角の朱印をいただいた。

竹林寺を訪ねたことが心に残る旅の一番の収穫だったように思われる。

次回は鍛治 繁子さんにお願いします。

